胸之守巻

凡胸乃守者婚姻事ニ而
固るより縁定て陰陽和
合の道基け夫婦睦敷
御睦する義子代まても
偕老同穴於加らしめ御開し
子孫繁昌の守護する故之
是を能紀河図聖書を取調て
儀有り男女婦乃襟有り
掛く婚姻の緒夫於方へ
持行ものや愛敬の守護
也とも申伝あり
一椿乃木ニ而 径り一寸高サ寸
七分ニ白き紙を以貼同様ニ
一本一寸七分ニ紙ニ而米を包

一椿乃木ニて径り一寸高サ二寸
七分ニ印を作り同枡ハ
一方一寸七分ニ作り米を少
入右の三色を紙ニ包守
袋ニ 籠之是を用る
印之枡を陰陽の器や
米ハ人間乃寿命を
養ひ千代万歳ニ
至まて目出度かるへし
尤そめ之椿ハ陰陽和
葉て殊ニ花盛のためし
何を又大椿八千歳の縁
しかや伝る之古歌ニ

君か代ハ志ら玉椿
八千代とも

君か代も志ら玉椿
　八千代とも
いかてかそへん限り
　なかりけれは

女中詞ニ白紙巾着といひ
袷を中細とも律し
くらしみや又僧ニ此ちらへ
さゝれ石を入るゝ者あり
是巌となりて苔のむす
までの謂ニ縁てや

一守袋の事ハ往昔より錦
を用ゆ之錦ハ一切の不浄
祓除て清浄之又妻愛
義を用ゐる主人好ミ
そのまゝにし用袋のことハ
本生の色このむや

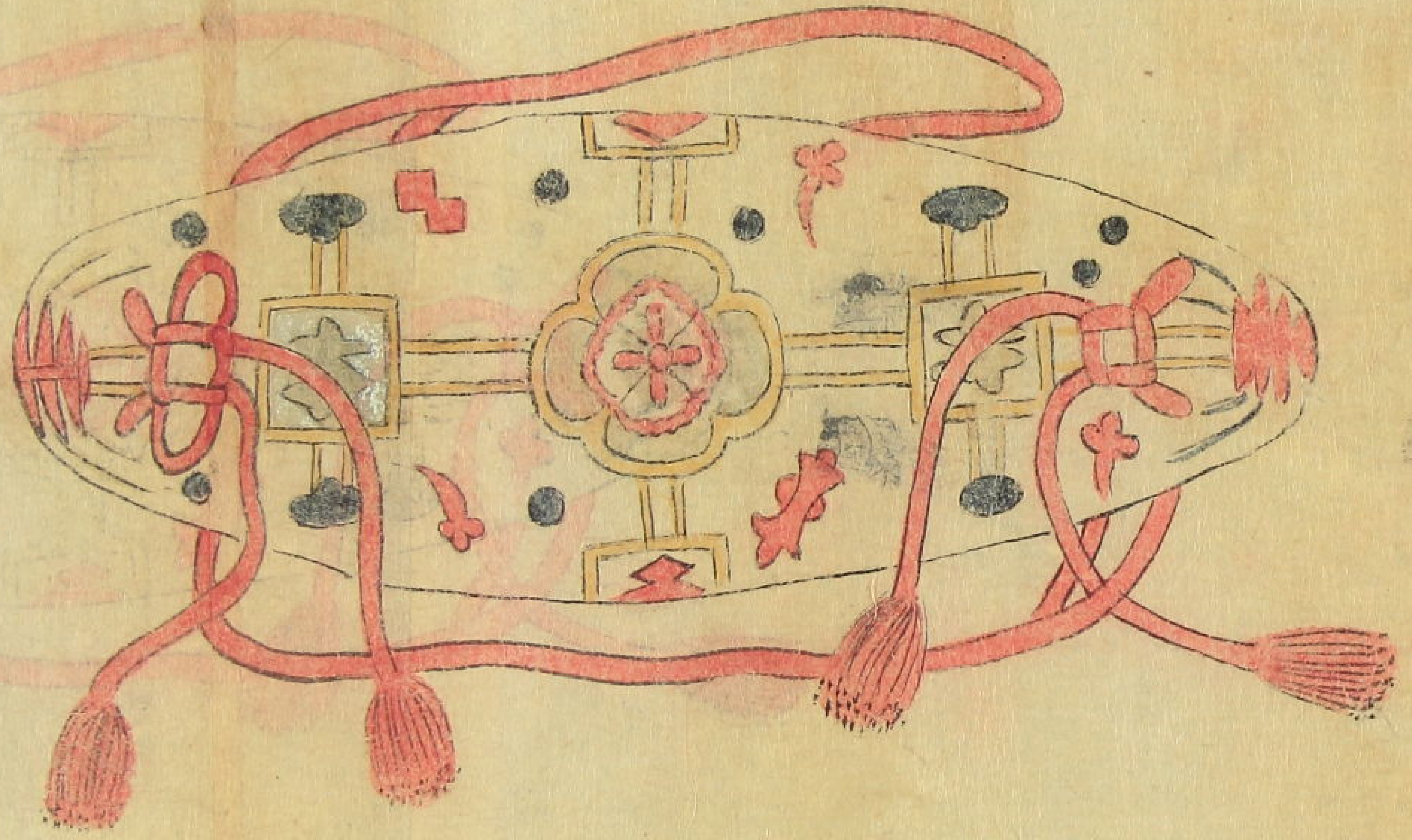
をまもるへし　同袋のくゝりハ
あせの色にある也
一　同袋ハ寸法縫立七寸四方
なるは是十八宿の守護乃
心をかつゝめしるし是ハ給
なし也
一　袋の襞左右に六川宛
合十二ハ是二六時中学道
やうにふたおとるき也
一　袋ハ緒の色主の好に事へし
緒の組やうハ好のまゝ二重
まハり五尺ハ緒は末を左右
長さ七寸終ハ二筋宛よ
組合　緒を通して一方ハ
十ハ結なり一寸ハ総角結也

叶結とハ一寸ハ総角結也
叶の文字ハ唐和ともに
漢字のこと縁に叶心結之
総角を結ふ
総角なと云も結ひ名
これの名の昔のものまて

一 女房ハ往昔より如意輪観音
を厨子に入置ひ本尊とも
まれ姫に伝ふ下し一偏にハ
ふかゝあり

一 熱して上臈まれ姫君を
かく傳まて初ち津くゝハ
婚姻の精様れ薬玉袂に
入又ハ夏まに入て持り
新枕の時参て寝く昔合
中傳新也熱して様て

新枕の時敷て寝し昔ゟ
中継新也起して枕とて
女貞木と云女中より
一人ある木之縫て何ゟ
へきもの也



右一巻者小笠原長時公
信州御沒落以後間此道
盡心法於御側御傳授
是書写畢他家不可有
類書雖然依不浅執心深
懇祈年之〻早安不可有
外見者也

岩村意休
重久

小笠原河内
知成

上原八左衛門
定之

小笠原河内
知成
上原八右衛門
定之
水島卜也
之成

延宝三

伊藤郷右衛門
幸氏
同隼太
幸充
同將曹
幸督
同隼太
幸仲
松岡清助
辰方
本間喜一
百里

本間寫

百里[illegible]

73
3645
191

胸之守巻

凡胸乃守者婚姻ヲ一ト
開くるより縁ヲ定て陰陽和

本間文庫

特 ワ3 3645 191

73
3645
191